

文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	令和8年3月25日	決裁	令和	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	副主幹	担当	担当						文書取扱主任

第28回 総務文教常任委員会 会議録

開催年月日	令和8年2月18日(水曜日)	開会13時30分	閉会16時01分
開催場所	第二・第三委員会室		
出席委員	安樂、荻野、寄谷、柴田、藤田、好川、福井、高橋 堀、関藤	事務局	寺嶋局長 壽崎次長 小島主事
欠席委員	なし		
説明員	別紙のとおり		
議件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。		
	(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について		
	(2) 令和7年度一般会計補正予算について(文化・体育大会派遣奨励費、中学校燃料費及び光熱水費、ICT関連予算並びに要保護・準要保護児童(生徒)就学援助費)		
	(3) 第2期滝川市小・中学校適正配置計画改訂(案)に係る経過報告について		
	(4) 滝川第一小学校建替整備基本計画策定業務に係る中間報告について		
	(5) 令和7年度一般会計補正予算について(市民交流プラザに係る賃貸料)		
	(6) 滝川市公民館条例の一部を改正する条例について		
	(7) たきかわホール条例を廃止する条例について		
	(8) 滝川市陶芸センター条例を廃止する条例について		
	(9) 公の施設の指定管理者の指定について(スポーツセンター等)		
	(10) 公の施設の指定管理者の指定について(石狩川河川敷パークゴルフ場)		
	(11) 不動産の無償貸付けについて		
	(12) 滝川市B&G海洋センター条例について		
	(13) 滝川市子ども科学館条例を廃止する等の条例について		
	(14) 一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について		
	(15) 滝川市行政手続条例の一部を改正する条例について		
	(16) 令和7年度一般会計補正予算について(住民情報システム標準化対応に係るシステム改修委託料の減額)		
	(17) 滝川市DX推進計画(案)について		
(18) 令和7年度一般会計補正予算について(避難行動要支援者システム更新委託業務に係る経費の繰越)			
(19) 令和7年度一般会計補正予算について(一般乗合バス運行負担金の減額)			

第28回 総務文教常任委員会

R8.2.18 (水)13:30～

第二・第三委員会室

開 会 13:30

委員長 定刻となりました。ただいまから第28回総務文教常任委員会を開会いたします。

委員動静報告

委員長 委員動静ですが、委員については全員出席をいただいております。議長、副議長に出席をいただいております。山口議員、木下議員が傍聴に入っております。なお、本日は15名の一般傍聴を許可しております。報道につきましては、株式会社北海道新聞社、株式会社北海道建設新聞社、株式会社空知新聞社の取材を許可しております。

1 所管からの報告事項について

委員長 それでは、所管からの報告事項について、◎については議案関連でございますので、ご留意願います。

教育部、(1)について説明を求めます。

(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

(別紙資料に基づき説明する。)

大井主査
委員長

説明が終わりました。

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(1)については報告済みといたします。

次、(2)について説明を求めます。

(2) 令和7年度一般会計補正予算について(文化・体育大会派遣奨励費、中学校燃料費及び光熱水費、ICT関連予算並びに要保護・準要保護児童(生徒)就学援助費)

(別紙資料に基づき説明する。)

渡辺係長
委員長

説明が終わりました。

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 なしということで、(2)については報告済みといたします。

5名の方が一般傍聴ということで入られましたので、これについては許可をいたします。

それでは、(3)について説明を求めます。

(3) 第2期滝川市小・中学校適正配置計画改訂(案)に係る経過報告について

(別紙資料に基づき説明する。)

山口係長
委員長
高 橋

説明が終わりました。

小規模特認校についてちょっとお伺いしたいのですが、この件については結構前から住民の方からお話を伺ったり、手紙をもらったりですとか、直接家に来られたという議員の方もいらっしゃったのですけれども、たくさんお話をされたかと思えます。意見も結構ばらばらで大変だったと思うのですが、住民との対話というのは、3月下旬までに決めるとおっしゃっていたのですけれども、これからまたお話をするとか、そういうことはするのでしょうか。

横田課長 3月の成案に向けては、2月12日に行いました懇談会をもって様々なご意見を

いただきましたので、これを踏まえて進めていきたいというふうに思っております。

委員長 ほかにも質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(3)については報告済みといたします。
次、(4)について説明を求めます。

(4) 滝川第一小学校建替整備基本計画策定業務に係る中間報告について
(別紙資料に基づき説明する。)

三浦主任主事 説明が終わりました。
委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(4)については報告済みといたします。
次、(5)について説明を求めます。

(5) 令和7年度一般会計補正予算について(市民交流プラザに係る賃貸料)
(別紙資料に基づき説明する。)

鈴木係長 説明が終わりました。
委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(5)については報告済みといたします。
次、(6)について説明を求めます。

(6) 滝川市公民館条例の一部を改正する条例について
(別紙資料に基づき説明する。)

鈴木係長 説明が終わりました。
委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(6)については報告済みといたします。
次、(7)について説明を求めます。

(7) たきかわホール条例を廃止する条例について
(別紙資料に基づき説明する。)

鈴木係長 説明が終わりました。
委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(7)については報告済みといたします。
次、(8)について説明を求めます。

(8) 滝川市陶芸センター条例を廃止する条例について
(別紙資料に基づき説明する。)

吉住主査 説明が終わりました。
委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 なしということで、(8)については報告済みといたします。
次、(9)の説明を求めます。

(9) 公の施設の指定管理者の指定について(スポーツセンター等)
(別紙資料に基づき説明する。)

鈴木係長 説明が終わりました。
委員長

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 なしということで、(9)については報告済みといたします。
次、(10)について説明を求めます。

鈴木係長 (10) 公の施設の指定管理者の指定について(石狩川河川敷パークゴルフ場)
委員長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 (10) について説明が終わりました。

柴田 質疑ございますか。

柴田 この中身ではないのですが、実はほかの指定管理施設のときにも私のほうから指摘をさせていただいたのですが、3年間の指定期間、これ5年、あるいはまたそれ以上に延ばしたほうがいいのではないかと、特にこういう指定管理者が決まっているような案件については3年ごとにといいことではない形が取れるはずなので、それも条例を変えることなくできるようなお話も聞いているので、少しそういった関係の検討を行ったほうがいいと思うのですが、いかがでしょう。

鈴木係長 柴田議員のご質問について答弁させていただきます。

前回総務文教でもありましたように、3年間から5年間に指定管理期間を延ばしたらどうだというご質問があったと思うのですがけれども、現在のところ3年間というふうな形を取っておりまして、今総務課のほうで次期指定管理者の期間に向けて検討しているということをご報告いただいているものですから、次回に向けて3年ではなく5年というのも視野に踏まえて今後検討してまいりたいと考えております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ほかにないようですので、(10)については報告済みといたします。
次、(11)、説明を求めます。

吉住主査 (11) 不動産の無償貸付けについて
委員長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

委員長 質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(11)については報告済みといたします。
次、(12)について説明を求めます。

平沼係長 (12) 滝川市B&G海洋センター条例について
委員長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員長 説明が終わりました。

委員長 質疑ございますか。

高橋 先日発表された予算概要に書いてあったのですが、送迎バスを運行されるということなのですが、こちらについては料金などの設定はしているのでしょうか、伺います。

平沼係長 送迎バスの料金については、設定はしておりません。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長 ないようですので、(12)については報告済みといたします。

最後に、(13) について説明を求めます。

永井係長
委員長

(13) 滝川市子ども科学館条例を廃止する等の条例について
(別紙資料に基づき説明する。)
説明が終わりました。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長

なしということで、(13) については報告済みといたします。
ここで所管入替えのため暫時休憩いたします。

休 憩 14:18

再 開 14:20

委員長

それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。
次、総務部、(14) について説明を求めます。

菅井主任級主事
委員長

(14) 一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について
(別紙資料に基づき説明する。)
説明が終わりました。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長

ないようですので、(14) については報告済みといたします。
次、(15) について説明を求めます。

渡邊係長
委員長

(15) 滝川市行政手続条例の一部を改正する条例について
(別紙資料に基づき説明する。)
説明が終わりました。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長

なしということで、(15) については報告済みといたします。
次、(16)、説明を求めます。

宮本係長
委員長

(16) 令和7年度一般会計補正予算について(住民情報システム標準化対応に係るシステム改修委託料の減額)
(別紙資料に基づき説明する。)
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長

なしということで、(16) については報告済みといたします。
次、(17) について説明を求めます。

宮本係長
委員長

(17) 滝川市DX推進計画(案)について
(別紙資料に基づき説明する。)
説明が終わりました。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員長

ないということで、(17) については報告済みといたします。
次、(18) について説明を求めます。

関主任級主事
委員長

(18) 令和7年度一般会計補正予算について(避難行動要支援者システム更新委託業務に係る経費の繰越)
(別紙資料に基づき説明する。)
説明が終わりました。

質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長 ないようですので、(18)については報告済みといたします。
次、(19)について説明を求めます。

(19) 令和7年度一般会計補正予算について(一般乗合バス運行負担金の減額)
(別紙資料に基づき説明する。)

平野課長補佐
委員 長 説明が終わりました。
質疑ございますか。

(なしの声あり)

委員 長 ないようですので、(19)については報告済みといたします。
ここで一旦暫時休憩をいたします。

休 憩 14:36

再 開 14:40

委員 長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。
次の報告事項(20)に入る前に、委員の皆様にお諮りいたします。本件に関わる質疑等を行うため、木下議員及び三上議員から委員外議員としての本委員会への出席の申出がありましたので、これを認めることに異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

委員 長 異議なしということで、それではここで暫時休憩いたします。

休 憩 14:40

再 開 14:41

委員 長 それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。
これから議事に入りますが、市長から発言の申出がありましたので、これを認めます。

市 長 それでは、委員長のお許しを得ましたので、発言をさせていただきたいと思

います。
この後、資料につきましては総務部長のほうから全体にわたってご説明申し上げさせていただきますが、まず私から今の考え方を話しさせていただきたいというふうに思います。ちょうど1年前になるわけでございますが、全員協議会の場におきまして滝川市立病院の経営課題などによりまして滝川駅周辺地区再整備事業に係ります財政見通しが予測できない状況となったということで、事業につきましては一旦停止という苦渋の決断をお示しさせていただきました。まず、1点目でございますが、滝川駅周辺地区再整備事業についてでございます。まず、結論から申しまして、白紙ということにさせていただくことを決断させていただきました。なお、白紙とさせていただきますけれども、必要と考えるものは一つ一つ取り組んでまいりたいというふうに思っております。まずは、市民の皆様の安全、安心のために老朽化の著しい旧スマイルビルの解体を目指させていただきます。それとともに、解体後の跡地利用を含めまして基本構想や基本計画段階でいただきました市民の皆様の声を最大限に生かす新たな取組を検討してまいりたいというふうに思っております。

2点目がホール機能についてでございます。こちらも新たな検討を始めさせていただきますというふうに思います。まずは、文化施設複合化事業としまして、ホール機能の代替施設、それ以外の必要な機能を集約、そして複合化した既存の公共施設の跡地利用によってこれらの代替機能の施設を造っていくというこ

とを検討してまいりたいというふうに思っております。また、その跡地利用まで若干の時間がかかることとなります。非常に申し訳ないと思っておりますが、当面の市民の皆様の文化、芸術活動への支援につきましては令和8年度の予算でしっかりと拡充させていきたいと、そのように考えているところでございます。なお、ホール機能でございますけれども、大規模ホールにつきましては、過日の文化連盟の皆様からのご要望も踏まえまして、実現に向けてかなりのハードルもあり、難しい部分はあるかもしれませんが、その可能性につきまして私としてはしっかりと可能性を求めて進んでまいりたいと思っている次第でございます。

以上、冒頭私の考えを2点申し上げました。ぜひとも委員各位の皆様方のご理解をよろしくお願い申し上げたいと思います。

委員 長

それでは、報告事項(20)の説明を求めます。

なお、説明及び質疑に当たっては簡潔明瞭に行うようにご配慮ください。

(20) 滝川市公共施設個別施設計画前期計画及び滝川駅周辺地区再生整備事業並びに財政収支の見通しについて

和田総務部長
委員 長

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑の順は委員の質疑を行った後、委員外議員の質疑を行うことといたします。

それでは、まず資料1ページから3ページまでの内容で質疑を行います。委員のほうから質疑ございますか。

福 井

2点確認させてください。1点目、病院事業会計の繰出金についてなのですが、再整備事業は白紙になってなお満額までの繰り出しを堅持する方針で、それ以上の検討はしないという認識でよろしいですか。2点目なのですが、滝川駅周辺地区再生整備事業の提示になった中に文化施設複合化事業も含まれていると思うのですが、それが白紙になったということで、組織の再編などがあるかどうかだけ確認させてください。

以上2点です。

岡崎財政課長

まず、1点目の病院事業会計の繰出金についてご回答いたします。現状としましては、繰り出し基準どおり繰り出すという方針に変わりはありません。

和田総務部長
委員 長

2点目の組織のお話ですが、これについては今検討しているところです。ほかに委員のほうから。

藤 田

白紙の件に対して3点ほどあるのですが、3点目は委員長に判断してもらいたいと思います。

まず、1点目、今回駅周辺整備事業を白紙にする理由として財政難が挙げられていると思うのですが、本当に財政難だけが理由かというふうに私は思っています。約2年前の時点で事業規模は既に示されております。その時点で本来財政シミュレーションを行っておれば将来的な負担の重さを把握できたと思います。昨年の私の一般質問を見ていただければ分かると思うのですが、その件については何回も質問しておりました。なぜ当時その財政シミュレーションを議会に提示できなかったのか、さらにその時点で財政的に厳しいことを認識していなかったのか、それとも認識していたが、何らかの理由で提示しなかったのか、ここの答弁を求めたいと思います。

2点目、この問題はそもそも組織のガバナンス上に何らかの問題がなかったの

かという点を伺いたいと思います。今回の経緯を見ると、政策決定過程においてガバナンス上の問題があったのではないかと私は考えております。例えば、市長が熱い思いがあった上で市長の独断の部分が多かったのか、そういった判断が強かったのか、この流れになってしまったのか。それとも駅周辺整備事業が周りとの連携がうまくできず、そのまま事業を優先し続けたことによって今回のことにつながってしまったのか。それとも財政課自体のチェック機能の甘さが今回の件を招いたのか。組織としての統制、さらには内部統制は機能していたのか、そこの説明を求めたいと思います。

こちらは3点目になるのですが、今回の財政シミュレーションを提示することが遅れてしまったといいますか、私が提示を求めていた時点でなかったことによる損失についての話です。財政シミュレーションを2年前に提示していれば、本来より早い段階でこの事業の方針判断ができた可能性があるとは私は考えております。その間に発生した経費など、そういった費用、コストの上昇分などがあるはずですが、本来最初の構想の時点では解体費は17億円程度だったと感じております。でも、今回出ている時点では23億円ぐらいになっている。これは大きな損失だと思っております。あとは、1年間駅周辺整備部を活動させていたことによって人件費が使われていたと思っております。そういうのを総合すると今回の提示が遅れてしまった、判断が遅れてしまったことによって起きる損失の額は具体的に幾らなのかというのを伺いたいと思います。

以上3点になります。

和田総務部長

まず、1点目です。財政難だけが理由なのかということのご質問だったかと思っております。結論から言うと、財政的に駅を、先ほど説明もしましたが、同時に取り組むことによって財政収支が見通せない状況になったということが最大の理由かなというふうに思っております。

それから、2点目の政策決定の過程におけるガバナンスといいますか、そういったところに何か問題があったのではないかとというようなご質問でしたが、そういうふうには考えてはおりません。我々も何とかできる方策がないかというようなことでずっと検討を進めていたところですので、特に決定の過程に何か問題があったのかというようなことは考えておりません。ただ、結果的に整備を白紙にせざるを得なかったということについては、これは大変申し訳ないというふうには思っておりますが、それを検討していく過程に何か問題があったのではないかとというようなことは、特にないというふうに思っております。

それから、提示が遅れたことによる経済的損失といいたいまいしょうか、そういったご質問がありましたが、コストが上がっていったりしているというのは、これは事実であります。そのことによるかといいますか、2年前に提示をしていたらどうだったというようなこと、提示が遅れたことによって人件費含め何か損失があるかと言われると、事業としては停止をしておりましたが、その間におきましても解体に向けた取組ですとか、そういったところを所管としてやっていたところですので、人件費等で何か損失があったのではないかとというようなことは、特にないというふうに思っております。

藤 田 多分今聞いている市民の皆様も全く納得していような気がするのですが、まず財政シミュレーション、これ提出をそもそも……

(何事か言う声あり)

藤 田 本当に、おかしいですよ、柴田委員。

和田総務部長

まず、市長、このことについてどう考えていますか。何でシミュレーションを出さなかったのですか。本来シミュレーションを出して、議会で判断する時間が必要だったはずですが。シミュレーションなしで進められていると思いませんか、今回の件。最終的に後出しのような感じがします。そこもまずできていないですし、あと説明もまず答弁になっていないような気がするのです。全然理由になっていないです。もう一度、私が分かりやすいように答弁お願いします。すみません、答弁になっていなかったかもしれません。なぜシミュレーションを出さなかったのかということをおっしゃっていますが、シミュレーションは事業を進めるに当たって判断をしていただくためにまとまった時点で出しますと。昨年財政シミュレーションが提示をできないので、これは事業を一旦止めさせていただきますというお話を何回もお答えさせていただいていると思います。財政シミュレーションが成り立つ状況ではありませんでしたので、事業を止めて、これはどういう形でどういう組み合わせをして進めていくことがいいのかというのを改めて再度検討し、それから歳入の状況ですとか、そういったところもしっかりと把握をしていく、それから病院に対する支援というのをいつまでどう続けていく必要があるのかというのも見極める必要があったと。それらのことがある程度見込まれてきた状況で今回解体ですとか、子育て施設ですとか、そういった事業も進めていきたいというふうに令和8年度予算の中で計上しておりますので、それに併せて財政シミュレーションについて作成をして提出をさせていただいたという状況であります。

委員長
関 藤

ほかに。

まずは、この駅前再開発について令和5年度から話が持ち上がって、市長が前向きに思いを持って進めてこられたということに関しては、全議員そのことに対しては本当に思い切ってその当時は市長も決断したのだと思っておりました。しかしながら、こういった結果になったということは、先を見通してできなかったということに対しては、市長も市民の皆さん、また関係団体、その他関連企業もあったのでしょ、そういったところに謝罪なり、説明責任が必要なのではないかなと思います。そして、今報告のあった経過事項についても、これはあくまでも市側の市立病院の点々というようなことが書かれておりますが、議会との関わりについてが全く経過の中に書かれていないのです。というのは、一昨年、令和6年度の段階で新年度予算のときに、私たちの会派は市立病院の事業計画に非常に精通した議員がおりますので、そういったところが情報収集等を行って、財源的なことも考え、開発内容が適正に進むかどうかということをお私たちの会派なりにシミュレーションして、修正案を出させていただいた経緯がございます。修正案は否決されたわけですから、当然議会で賛成多数ということで進んでいくのだらうなと、市長もその間頑張って進んでいくのだらうなという思いで私どもはおりましたし、市民にもそういった説明をしてまいりました。ところが、令和7年、昨年2月に一旦停止という報告を突然受けたわけですから。一旦停止ということなので、財政見通しができないということでそこで市長も考えられたのだと思いますが、そういったことも含めて、一旦停止であればどこかで進むのでしょうかということでも私も市民に説明してまいりました。ところが、昨年度の夏、駅前再開発について途中報告、今後の考え方ということで説明を私ども受けました。そのときには、中身の政策転換もあり得るという報告を受けたわけですから。そのことに対しては、私も9月の一般質問でこの政

策転換は白紙撤回にするということですかという質問をさせていただきました。そのときの答えは、そうではないという答弁をいただいております。ということは、白紙ではなく、やはりどこかで進めていくのだろうなということでも今まではずっと市民にそういった説明をしてきた経緯がございます。今回正式にこういった白紙撤回ということですので、そのことに対して市民や関係団体等に市のほうから懇切丁寧な説明をするべきだと思いますが、その点どのように対応されるのかお伺いしたいのが1点。

もう2点目は、今藤田委員のほうから損失がどうだこうだという質問があったかと思うのですが、この2年間の間に駅前再開発に費やしてきた経費がどのくらいあるのか、まず令和6年度のときに駅前再開発に向けて調査費用ということが計上されてきたわけですから、そこから駅前再開発に向けて使われてきた税がどのくらいあるのかをお伺いしたいと思います。

3点目は資料に出ていない内容なのですが、ここで伺っておきたいことです。駅前再開発に向けて市のほうではその部署に4名程度の人員配置をしていたかと思うのですが、今後その部署はどのような取扱いになるのかお伺いしておきたいと思います。

(「そのまま」と言う声あり)

関 藤

そのままか、失礼しました。

それと、2ページ目に新たな取組ということで、解体するというところで進んでいくようでございますが、新たな取組として将来ビジョンがここに書かれているわけですが、この将来ビジョンに向けて駅前の施設を解体した後、ソフトの部分は住みたいエリアに転換していきたいという部分は分かるのですが、ただ更地にしてしまいました、そのままですというわけにはいかないかと思うのです。構想としてどんなことを描いているのか、今の段階で、これからいろんな方々の意見は聞くかと思うのですけれども、市としてこんな構想で取り組みたいのだというのがあればお伺いしておきたいなと思います。

市 長

数点ご質問がございましたので、私のほうから何点かお答えをさせていただきたいと思いますが、まず市民の皆様方、関係者におわびしると、それは当然のことだろうと思います。この委員会が終わり次第、議会の皆様方の前で説明する以前にそうやっておわびして歩くのは議会軽視と言われたら困りますので、私はそれを行っておりませんでした。ですから、この委員会でこのような発表をした後に関係団体並びにそれを期待していた皆様におわびをする方法を考えながら、ご説明に上がりたいと、そのように考えているところであります。

そして、まず経費のお話がありましたけれども、確かに一昨年基本計画の策定について幾つかの予算、市民ネットワークの皆様方から修正案を出されましたが、そのときに私が申し上げたのは、今後いろいろな問題が発生した場合、例えばこれからの学校大規模改修等に支障を来すということが考えられた場合は勇気ある撤退をしますという説明をしたと思っております。そのとおりに私は進めてきたつもりでございまして、徹底的に何とか頑張って踏ん張ってこの事業を成功させようという思いができました。先ほど藤田議員からはガバナンスが悪いのではないか、市長の熱い思いだけで突っ走るのではないかというご指摘もございましたが、私としてはやはり何とかこの事業を成功させたいという思いがあってやってきたこととさせていただきます。残念ながらそれがかなわなかったということで非常に残念に思っていますが、基本計画等で作ってきた計画を今後

既存施設の跡地利用をする場合にその計画の内容をしっかりと反映していくということにしていきたいと思っておりますので、そこにかかった費用は私は無駄なことではなかったと、そのように思っておりますし、無駄にしないような考え方を行っていききたいというふうに思っております。

新たな取組でございますけれども、今私の中に考えられるのは、まずは解体をした後にただの空き地ではなくてイベント広場的なものできないかという考え方、または最近よく駅前等にマンションの建設が行われているところがございますので、そのようなところに今までもアプローチをしてまいりました。これからもそのようなところにアプローチするのも一つかなというふうに思っておりますし、ほかにも公的な施設がもっと簡易なものが考えられないかということがあれば、そのようなことも考えていくような形で、そのまま更地にして置いておくつもりは全くございませんし、基本構想というものは生きておりますので、その基本構想に沿って、市民の皆様のご意見、または様々なお知恵をいただきながら考えていききたいというふうに思っております。

和田総務部長

先ほど2年間でかかった経費というお話がありました。すみません、今具体的な数字を持っておりませんので、これにつきましては必要であれば後ほどご説明をしたいというふうに思います。

それから、組織の話も先ほどございました。先ほど福井委員の質問にもお答えしましたけれども、今現在検討しているところであります。

委員長
高橋

ほかに質疑ございますか。

今の市長のお話から、滝川駅周辺地区再生整備事業は白紙化するということがあったのですけれども、土台である構想まではなくなりませんよということは理解しましたので、私からは2点ほど質問を未来志向でさせていただきたいと思っております。

これまでの市民からの要望ですとかアイデアを最大限に生かすことのできる新たな取組を検討するというふうにして書いてあるのですけれども、白紙撤回という言葉だけが先行してしまって、ここ数日不安を直接伝えてきたり、様々な勘違いをしている市民の方が実際にいらっしゃいました。市民の誤解を解き、安心してもらうためにももう少し詳しく駅周辺の構想に基づいた新たな取組、市が描いている将来ビジョンを伺いたいと思います。

2点目がホール機能の代替機能についてです。ホール機能の代替機能というのは、例えば音楽公民館ですとか市民交流プラザのようなものを指しているのでしょうか。市民は、新しいホールができるまでとこれまで我慢して使ってきた背景があります。跡地利用には時間がかかると先ほどおっしゃっていたのですけれども、どれくらいの期間、規模、予算を投じる予定なのか、答えられる範囲でいいので、教えていただきたいと思っております。

委員長

高橋委員、1点目の将来ビジョンというのは、先ほどの関藤委員の質疑で市長が答えられているのですけれども、それではまだ納得できないということで。

高橋
市長

思いの部分をもう少し。

お答えをさせていただきたいと思いますが、思いはたくさんあるものですから、いろんなことを考えていききたいなというふうに思っておりますし、いろんなお知恵をいただければなと思っております。やはり滝川の駅前というものは滝川の顔であります。その顔をしっかりとつくっていくということは重要であると思っておりますので、商店街の皆様方の期待も大きいということもございます。

どのような形でにぎわいづくりをしていくかということが必要かなというふう
に思っております。取りあえず先ほどはイベント広場的なものというお話をし
ましたけれども、例えばこの近辺で行われていますワインフェスタですとかピ
アガーデンみたいなものもできるような施設を駅前に持っていくというのも1
つだというふうに思いますし、キッチンカーとか、そういうものが集って食事
を出したりとか、土日にはそういったものが出て、夕方にはそのようなところ
でビールでも飲めるとか、そのような形を取りあえずは取っていただければいいな
というのが私の考え方でございます。さらに、その後にといいですか、それと
同時並行しながら、先ほど申し上げたように駅前に住みたいと、一軒家に住ん
でいる高齢者の皆さんなんかはマンションがいいのだというお話を随分聞いて
おります。そういう皆さん方が住めるようなマンションを建てていただく、そ
れは公共ではなくて民間の投資で行っていただけるものはないかということで、
今札幌関係とか不動産屋関係、いろんなところをお願いをしたり、ネットワー
クでいろいろ探しているところでもございまして、そのようなものができればい
いという願望は持っております。そのほかに、買物がしたいという方々がいら
っしゃいますから、そういうマンションのときには1階に例えばコンビニを入
れていただくとか、コンビニの誘致もいろいろ今までやってきましたが、全
て断られております。残念ながら駅周辺の人口規模が規定に満たないというこ
とでもございまして、2,000人以上の人口がないとあの辺にはコンビニを造って
いただけないということですので、それに見合うようなものが何かできないかと
か、そんなことも考えていきたいなと思っております。また、中央バスがお持
ちのビルをお借りして観光スクエアが入っております。あのビルもどのような
活用ができるか分かりませんが、そのようなこともやっていきたいというふう
に思っております。そんなことでもございまして、まだまだ私の知恵では
足りないところがございまして、高橋委員以下、市議会議員の皆様方や市民
の皆様のお知恵をいただいて考えていきたいと思っておりますので、よろしくお
願い申し上げたいと思います。

2点目でもございますが、確かに代替施設、皆さん方に早く提供できるような環
境をつくりたいと思っておりますが、先ほど関藤委員のご質問にもお答えしま
したが、今まで皆様方とつくっていましたが基本計画の複合施設の案がございま
す。あの案をそっくりとはいきませんが、それらを採用した代替施設を造って
いければということで、私が今想定しておりますのは、統合計画を進めており
ます開西中学校の跡を使うことができないかということを考えております。あ
そこの体育館が今回複合施設として考えましたホールの面積と大体同等でござ
います。ですから、何百席かの可動の席を作って、今の技術ですとかなり音響
のいいものができるということも聞いておりますので、それなりのお金をかけ
た改修をすれば皆様方には少しご理解いただけるホールが、小規模でございま
すけれども、できるのでないかと。そのほかにも、開西中学校の跡ですと展示
室ですとか、作業室や集会所、様々なものが一緒に併設できるということにな
りますので、私としては生涯学習センター機能を持った施設を造っていくとい
うことを検討していきたい。これは、統合が前提でございまして、それが終
わった後ということになります。今統合を進めております江陵中学校と開西
中学校の話がまとめ、改修を始めたとして、遅くとも令和14年には皆様方に
提供できるというものにしていきたいというふう考えております。遅くとも

です。少し早めたいと思っっているのですが、統合問題もございまして、決定もしておりませんので、そういう意味ではまだまだ難しいかと思ひます。確かに今からですと、あと何年後かと今指を折っている方がいらっしやると思ひますが、かなりの時間がかかってしまいます。その間は、誠に申し訳ございせんが、音楽公民館に冷房装置を設置します。また、他の施設を利用したときの補助金も多く出させていたひいて、その間何とか我慢していただひいて、滝川の文化の火が消えないように、少しずつでもいいですから、お手伝ひをさせていただきたいと思っておりますので、その点はご理解いただひきたいと思ひます。金額については、この場で申しますと独り歩きしますので、何とも言えせんので、ご容赦いただひきたいと思ひます。

委員 長
寄 谷

ほかに質疑ありますか。

私もホール機能に関して伺いたひなと思ひのですが、今開西中学校の跡地利用のお話が出て、金額のお話はできないということだったのですが、これについて一応前期計画で行うということになっておりまして、この後の財政収支のところでもあるのですが、基金残高が30億円ぐらいになるということていくと、どれぐらいの見積もりていくのか、これについては出した上でほかの事業との調整が必要ではないかと思ひますので、ざっくりとでも出せないものか伺いたひのが1点。あと大規模ホールについては非常に実現は難しいということなのですが、どれぐらいの規模のものだと無理だというふうて考えているのかということて、そういう意味では下限と上限の幅というものが分かれば伺いたひのですけれども。

市 長

まず1点目に、この後の財政シミュレーションの残額を含めてのご質問てござひますけれども、金額というものは本当にまだ不確定なものがあつて、大体これくらいてできるのではないかということは考えてはおりますけれども、ただそれは独り歩きしてしまいますので、その数字は今申し上げることはできませんし、私としてはこの金額ぐらいまでで何とか収めるようなことはできないかというものは持ち合わせておりますけれども、それをお答えするのはご容赦いただひきたいというふうて思ひます。

また、大ホールてござひますけれども、私のイメージは、文化連盟の皆様方からぜひともというお声があつた旧文化センターの跡地といひますか、今あるところてすけれども、あそこをイメージしていきたひなというふうには思っておりますが、ハザードマップの問題、また立地適正化計画の問題等てござひまして、それを変更していかなければいけないところもござひます。その後て固定席のある程度の本格的なホールを私は造つていきたひなというふうて思っております。先般記者懇談会のご質問にもお答えしましたが、中空知の中心都市としてはこれからのコンベンション機能ですとか、子供たちに本物の音楽、またいろんなものに触れ合つていただくためにもそういうホールは必要であるというふうて思っております。近隣の自治体のホールもかなり老朽化しておりますし、それだけの大きさのものもなかなかないということてござひますので、中空知はこれから人口減少して2040年には5万人程度ということが見込まれておりますけれども、そのときにもやはり中心市としてしっかりとした大ホール機能があるべきであると私は思っておりますので、それを目指して努力していきたひなというふうて思っております。金額につきましては、それはそのときの建築単価とか様々なことがござひます。また、もしも必要ならば、システム建

築というものがございまして、いわゆるプレハブみたいなものなのですが、劇団四季なんかがよく札幌で使っているような、ミュージカルのあのようなものでもよければもっとお安くできるということもございまして。それらも検討の余地に入るのかなというふうに思っています。様々な角度から、ご意見をお聞きし、検討してまいりたいと思っていますので、金額ばかりお聞きになっていただいても見通しが立たない今現在について明快な金額等々はお答えできないのはご理解いただきたいと思っております。

寄 谷

具体的な金額はという話があったのですが、少なくない金額が必要だろうというのは目に見えていると思うのですが、それを考えたときに前期計画で予定している計画について見直してもいいのではないかなと思うものがありますので、それについてちょっと伺いたいのですが、駅前については旧スマイルビルの解体をするということで今お話が進んでいるのですが、これの解体については22億円から23億円ぐらいの見積りを持っていますが、これだけのお金をかけてどう使うかまだはっきり決まっていない工事を進めるのはいかがかなと思うところがあります。これについては独自の財源で使うというよりは、なかなか補助事業がないということで苦労されていますが、使う目的がまだ決まっていないわけですから、そういう補助事業を探すということで、当面は安全対策は必要ですけれども、解体というのは少し延ばす、そういう判断が必要ではないかなと思うところですが、これについてはどうでしょうか。

市 長

それは、寄谷委員のお考えだと思います。私としては、市民の皆さんの安全、安心のために危険な建物は一刻も早く処分したいなというふうに思っております。ほかにもたくさんございますけれども、まずはスマイルビルの解体をしていきたいなと思っております。先ほど藤田委員からもご指摘がございましたが、延ばせば延ばすほど金額が上がってまいります。それだけまたさらに高価な解体費用がかかるということになりますので、速急に解体するほうが私としては市の財政運営上メリットがあると考えておりますので、そのように進めてまいりたいと思っております。寄谷委員として私どもの考えに反対でしたら、ぜひ予算に否決をしていただければと思います。

委 員 長

ほかに委員のほうから質疑ございますか。

(なしの声あり)

委 員 長

委員の方の質疑がないということで、次に委員外議員の方の質疑を行います。ここで委員の皆様にお諮りをいたします。委員外議員による質疑については、個別に拒否を諮ることなく、包括的に発言を認める取扱いとしたいというふうに考えておりますが、ご異議ございますか。

(異議なしの声あり)

委 員 長

では、そのように取り扱わせていただきます。

三上委員外議員

私は、今日市長が出席されるということで、まずは白紙にするということで市民の皆さんに対しておわびされるのかなと思って注視しておりました。これまで計画だけで2,500万円の血税を使っております。今市民は、物価高にあえいでおります。そういった中で、そのお金が、先ほど説明がありましたけれども、無駄にはしないということで、まずは関係団体、これから歩くというお話ですが、見えない市民もいます。関係しない市民もいます。ただ、税金は使われているのです。だから、そういった市民に対してやはりおわびする場があってもいいのではないかなと私は思いますが、これが1点です。

2点目です。先ほど来ガバナンスの統治機構、いわゆる組織の話が出ておりました。それで、私が非常に不思議に思うのは、一昨年の市長の市政報告会というのがございました。そこで市長は、駅前再生整備関係のお話をされております。この整備事業については、財政負担は心配ないから、皆さん、どうぞご期待してくださいというような趣旨のことをその市政報告会でおっしゃっております。ところが、その翌年の2月に病院事業の悪化を理由に一旦停止するという結論に達しております。そこで、お聞きしたいのは、財政当局はこの時点で、市長が市政報告会をするこの近辺で市立病院の経営が非常にひどい、あるいはそれ以外の部分でも財政的に将来見通しが立たないということ把握していたか、把握していないか、はっきりさせてください。

この2点です。

市 長

まず、1点目について、冒頭おわびということがなかったのは、誠に申し訳ございませんでした。先般の記者懇談会等では市民の皆様へのおわびの言葉は述べたつもりでございます。この場で述べなかったことについては、冒頭言葉足らずだったことおわび申し上げたいと思いますし、またどのような形で市民の皆様におわびをするかということは今後考えていきたいというふうに思います。関係機関等を歩く中で考えていくのも1つですし、あとはいろいろと考えさせていただければなというふうに思います。

物価高の中で損失をかけたというお話がございました。私としては、それは大変申し訳なく思っているところでもございます。しかしながら、先ほど来申し上げましたとおり、計画等に使ったお金、またいろんなご意見というのは全く無駄にするつもりはございませんので、私としてはそんなに大きな損害を与えたと、精神的な問題はあるかもしれませんが、金銭的なものとして大きなものを市民の皆さんの損失というふうに捉えられることには非常に申し訳なく思いますが、その点をご容赦いただければというふうにお話しするしかないというふうに思っております。

次に、市政報告会のときに大丈夫ですというお話をしたということでございます。確かにあの時点では病院会計にとっては厳しい状況は見えるよというお話は伺っていましたが、あのような場において財政が厳しいからよく分かりませんという話は私はできないというような判断を、今思い出しているところですが、できなかったのだというふうに思っております。やはり市民の皆様方へ期待を持っていただいていた事業でございますので、頑張っけてやりますので、財政的にも問題ありませんという言葉を使ったのだと思います。だますつもりで言ったわけではございませんし、そんなつもりは毛頭ございませんし、その時点での市立病院の赤字等につきましても年が明けてからたしか大きな赤字が見えてきて、これはまずいなということで判断をしました。その当時は一旦停止をすると思っていなかったということでご理解をいただきたいと思っております。私が一番危惧しているのは、市長まで財政状況が果たして伝わっていたのかどうかということなのです。病院だけではないです。こういう大規模事業をするときは、特別会計、企業会計も含めた将来見通しを示すべきなのです。それをふだんから財政当局というのは把握していると思っております。ところが、把握していながら、それを上に上げていかなかったということが非常に将来にわたってこの滝川市役所大丈夫かという危惧をしております。その辺は大丈夫だったのですね、財政の方は。

三上委員外議員

岡崎財政課長 その時々々の財政状況については、隠すことなく上まで報告していますので、大丈夫だったと思っております。

委員長 それでは、1から3ページまでの質疑についてはこれで終結をします。

福井 次に、4ページから8ページまでの内容について質疑を行います。まず、委員のほうから質疑ある方お願いいたします。

福井 私のほうからお伺いします。10点あります。

1点目、基金残高と対応力の定義について、資料最後のページでは令和17年時点で基金残高が約30億円残るため、一定の対応力があるとされています。しかし、実際には令和8年から17年の10年間全て赤字であり、基金は約23億円減少しています。つまり毎年赤字で、基金で穴埋めして、基金が減り続けるという構造が続く中でどのような根拠に基づき対応力があると判断されたのか教えていただきたいです。また、駅周辺再生整備事業、5つの事業が令和7年の残高より多い状況で、一旦停止から白紙に至っています。今回対応力があると判断をしていますが、整合性についても市民が納得できるような説明をお願いします。

2点目なのですけれども、歳入の自然減の見積もりの根拠について、税金のほうは詳しくないので、ぜひ教えていただきたいのと、市が想定しているものを市民の皆さんと我々で共有できたらなと思い聞いていきます。歳入の自然減について、人口減少や交付税の減少リスクをどのように見積もっていたのか教えてください。人口減の前提は、前回も一般質問した社人研推計なのか、滝川独自の推計なのか、またそれ以外の指標が何かあったのか。交付税減、定額減税による交付税定率分の減収の影響について、これ僕全く分からなくて門外漢ですので、現状の市の認識と今後の見通しを教えてください。これが2点目です。

3点目、歳出の増加要因の見込みについて、7ページの資料では物価高騰、人件費増加、金利上昇などの不確定要素が多いと記載されていますが、歳出の見込みは令和13年度以降ほぼ横ばい、または微減となっています。これは私の個人的な見解なのですけれども、このような横ばいや微減はあり得ないと考えています。この横ばいの見込みと根拠になる計数、前提条件があれば教えてください。物価、人件費、金利が上昇する中で支出が横ばいになる理由を具体的に説明いただきたいと思います。

4点目なのですけれども、中期事業、個別施設計画ですね、あと文化施設複合化事業を織り込んでいない点についてのことを聞こうと思ったのですけれども、複合化事業は先ほどのほかの委員の答弁で聞いたので、中期事業についてお伺いします。今回の資産では中期事業、例えば小中学校の集約施設の事業と中学再編事業など含まれているように見えないのです。これらを織り込んだ場合…

委員長 福井委員、中学校の話は今は関係ないので。

福井 個別施設計画のやつなのですよね。

委員長 それは、また別の機会にやってください。

福井 分かりました。では、これについては切ります。

では、改めて4点目、財政収支見通しについて……

(何事か言う声あり)

福井 時間そんなに気になるのですか。

将来の見通しについては相応の幅とありますが、市が想定している令和17年度

の基金残高の上限値と下限値をお示しく下さい。

6点目、収支に影響を及ぼす不確定要素について、これまでも不断の努力で歳入歳出の適正化を、委員長、すみません、しゃべっている方がいるのですけれども、指摘しなくていいのですか。

委員長
福 井

続けてください。

これまでも不断の努力で歳入歳出の適正化を図っていただけたかと思いますが、それでもなお対応し切れない場合は、大きな事業、例えば新小学校整備事業等に対する一旦停止や白紙撤回の決断もあるという可能性はありますか。

7点目、個別施設計画事業等について、すみません、これかぶっていたので、切ります。

改めて7点目、個別施設計画中期計画について、中期計画とシミュレーションの令和14年から17年の期間が重なります。当該期間の収支見通しと基金残高に織り込まれていると思いますが、その内訳を確認させてください。

9点目、ふるさと納税について、令和7年より2億円多い令和8年度は寄附金予算額を17億円としましたが、令和9年度以降、シミュレーションには寄附金は幾らと想定されているのかお示しく下さい。

最後、その他なのですけれども、シミュレーションの厳しめなシナリオについて、現在の資産は比較的楽観的な前提に基づいているように私は見受けております。物価、人口減、寄附減などを織り込んだ厳しめのシナリオを示す考えはありますか。

以上、2個削ったので、8点です。お願いします。

柴 田
委員長

4時を過ぎるので、あらかじめ委員会での確認をしていただきたいと思います。常任委員会については4時という取決めがありますが、今回については委員の皆さんには時間が過ぎても継続したいというふうに考えています。ただし、市長におかれましては事後の予定が入っていますので、4時前に退出をいたします。事後の答弁については総務部長というふうになりますが、委員の皆さん、それでよろしいですか。

(異議なしの声あり)

委員長
岡崎財政課長

では、そのように取り扱わせていただきます。

ただいまの質問にお答えいたします。

まず、1点目の対応力の関係ですけれども、まず財政見通しを作成するに当たりましては、国の制度改正ですとか経済情勢の変動など将来の不確実性を完全に予測することは困難であります。しかしながら、こうした見えないリスクが財政運営に影響を及ぼす可能性についても対応しなければならないというふうに考えております。そういった意味で、具体的な判断材料としましては、この10年間で23億円減少しますけれども、まだ30億円残るという点、それと過去にも施設整備政策基金とふるさと基金の残高が10億円前後で推移していた時期もあります。そういった時点でもそれなりの対応ができていたということも踏まえて対応力があるというふうに判断したところです。

それと、2点目の歳入の見積りの根拠について、人口の考え方ですけれども、社人研の推計を参考にしつつ、これまで実際の人口減少率も踏まえて推計しております。それと、人口総数そのものを直接当てはめるというよりは、減少率を数値に反映させる形を取っているものが多いという状況となっております。それと、歳出の増加要因の見込みの部分で横ばいとか減っていることがあり得

ないのではないかとのご指摘ですけれども、基本的収支の部分のお話だと思います。この部分につきましては、特に公債費については基本的収支の中には既に発行したものの償還分しか入っておりませんので、金利の上昇の影響も受けることはありませんし、年数が進むにつれてただ償還が進んでいくということで歳出は減っていくという形になっております。

それと、将来見通しの相応の幅の部分です。幅の部分については、収支が想定より悪化した場合ですとか、そういった場合についてはその時点で改めて収支見通しを精査しまして計画どおりに事業を進められるかどうかを検証する必要があるというふうに考えています。ただ、悪化要因だけではなくて、幅の中には好転する可能性もあると思っております。例えば決算余剰金による積立金については控え目に見積もっておりますし、市税や普通交付税についても上振れする可能性というのものもあるかなというふうに思っています。現時点でそういったことを踏まえると、上限値、下限値を具体的にお示しすることはちょっと難しいかなというふうに思っております。

それと、ふるさと納税につきましては、毎年15億円の寄附額というふうに数値上入れております。

最後、厳しめのシナリオの試算を示す考えというところですが、先ほど申しましたとおり財政運営上のリスク、様々な今後の経済情勢の変動ですとか、国の制度改正による財政上のリスクがあるということは認識しておりまして、そのため標準的な前提による今回お示ししたような基本ケースに加えまして、例えば歳入が減少した場合ですとか、人件費等の義務的経費が増加した場合などの複数の前提を置いたリスクシナリオを内部的には検討しております。ただ、こうしたシナリオ分析というのはあくまで内部の検討でありまして、資料としては作成しておりませんが、財政運営におけるリスク管理の一環としては継続して行っているところであります。今後も国の制度改正ですとか経済動向を注視しつつ、財政状況が悪化した場合でも必要な行政サービスを安定的に提供できるように適切に財政運営に努めてまいりたいと考えております。

小畑総務部次長

質問の残り2点についてお答えをさせていただきます。

不確定要素についてということで、例えば小学校整備等の事業に対する影響ということで、こうした事業に対して白紙というような可能性もあるのかというご質問だったと思いますけれども、可能性という意味ではゼロではないということになると思いますけれども、そうならないようにしっかり努力をしていきたいというふうに考えております。

それと、個別施設計画の中の中期計画分、ご質問の途中でおやめになった部分もあるかと思っておりますけれども、中期計画のものについてはまだ具体的にどういった内容にするのかということを描いておりませんので、事業費についても積算しておりませんし、収支見通しにも入っておりません。

委員長
関 藤

ほかに委員のほうから質疑ございますか。

8ページにある基金の積立てなのですが、今ふるさと納税で15億円、その半分、5割ということで7.5億円プラス決算剰余で2億円で多分9億5,000万円という数字がここに出ているのかなと思うのですが、この積立てに関して一般家庭でいえば貯金みたいなものですよ。そうすると、会社にしてもこういった積立てというお金に関しては短期的に、中期的に、長期的にと考えていくわけですが、10年間ずっとこの9億5,000万円というのはどういった根拠で10年間

これがずっと続くという想定をされたのか。当然これは、前回のようにふるさと納税はグレーゾーンがあつて、ぼんと5億円まで落ち込むこともあるわけです。そういったことを考えたときに、基金の積立てに関して9億5,000万円というのは最低限これは積み立てるといふことの現れなのか、それとも最大限マックスという考えでおられるのか、その点をお聞きしておきたいと思います。

岡崎財政課長

ふるさと納税につきましては、確かに制度自体が不確定要素もありますので、増減するのではないかというご心配があるというのは承知しておりますけれども、これを目標に取り組んでいくということで15億円としております。今年度については18億円を超えていますので、何とか15億円はキープしていきたいということにしております。

それと、決算余剰金の2億円については、正直かなり厳しめに見ているつもりでおります。ここ数年の決算状況を見ますともっと積立てできておりますので、2億円についてはかなり可能な数字だというふうに見ております。

委員長

ほかに委員のほうからないですか。

(なしの声あり)

委員長

それでは、委員外議員のほうから質疑を受けたいと思います。

木下委員外議員

私のほうからは2点ほどお願いいたします。

まず、病院財政が一番の白紙の理由だと推察いたしますが、病院を閉めた場合や売却した場合の試算の検討は行っていましたか。

それと、7ページの収支見通しのところで総合計の欄の中で令和11年度にいきなり減っているのはなぜでしょうか。

以上2点です。よろしく申し上げます。

市長

ただいまの木下議員のご質問でございますが、病院を閉めた場合、売却というお話がございました。そういう考え方もあるかと思いますが、私もそれが頭をよぎることはしょっちゅうございます。しかしながら、滝川市民の皆様方の医療を守るためにはやはりあの市立病院は絶対残さなければいけないというふうに思っておりますので、砂川とか近隣の自治体病院と機能分担をしっかりとすることによって残るといふふうに思っておりますので、その方法で私は考えていきたいということ。また、売却等があれば、例えば徳洲会病院とかがございますよね、そういうところに売却という話はございますけれども、いろいろとお聞きしましたけれども、うちの病院は難しいみたいですので、売却は不可能であるというふうに私は判断をしております。そういう意味では、やはりこれからの地域医療構想の中でしっかりと病院の位置づけを行いながら、少しでも経営改善を行い、赤字体質から脱却するように、また繰入額が少しでも減るように努力してまいりたいというふうに思っています。

岡崎財政課長

2点目の質問にお答えいたします。

令和11年で収支が少しよくなる理由ですけれども、想定しているスケジュールでは、スマイルビルの解体と子育て施設の建設が令和9年と10年で想定しております。その2年で工事が終わるので、令和11年は少し落ちるといふことになっております。

委員長

ほかに。

三上委員外議員

市長、まだ大丈夫ですか、もうそろそろですか。1点だけ、それでは質問させていただきます。

市長と議会は共に市政を担う主体だと私は思っております。同じ方向だけを向

いて協調すればよいというものではなく、相互に牽制し合うことで権力の集中を防ぎ、市政の健全性を保つのだと理解しております。議会は住民の代表として政策や予算を厳しく点検し、市長はその指摘を踏まえて行政を適切に執行する責務を負っていると思っております。そこで、その役割を担う二元代表制の下で今回議会が再三再四滝川の将来の財政見通しを示してほしいと訴えてきました。2年半前からです。ようやくこのたび将来の財政見通し、私は不満でありますけれども、ここには一般会計を中心とするものしか載っていないのです。いわゆる財政見通しというのは、企業会計、一般会計、特別会計が考慮されたものを見通さないと駄目だと思っております。そうですよね。そこで、議会や市民に対して今まで再三再四遅らせてきたということが誠実な対応だったとお考えでしょうか。

市 長

今の三上議員のご質問でございますけれども、確かに財政見通し等がなかなか出せないということは再三再四今までの議会でも答弁をさせていただいて、様々な要素が確定していない部分ではなかなか出せませんというお話をしてきたつもりでございます。ぜひともそれはご理解いただきたいと思います。三上議員にはご理解いただけなかったようでございます。誠に申し訳なく思います。しかしながら、私どもとしては精いっぱいいろいろと出せるものは出しております。二元代表制の中で議会に隠し事をする気は全くございませんので、全てを明らかにしながら議会と協議をしていくという姿勢には変わりはありません。その中において財政見通しを出していなかったというのは、確かに議会側からすれば大変ご不満があったかと思っておりますけれども、理事者側としてはある程度しっかりしたものを出したいという意向が大きく働いたということでございますので、その点をご理解いただきたいと思います。

委員 長

よろしいですか。

(なしの声あり)

委員 長

それでは、これで質疑を終結いたします。

(20)については報告済みといたします。

以上で総務部の報告を終わります。

ここで所管及び報道各社、それから一般傍聴の方については退席を願います。市長も退席願います。

2 第1回定例会以降の調査事項について

委員 長

それでは、第1回定例会以降の調査事項については、別紙のとおりでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員 長

そのようにいたします。

3 その他について

委員 長

その他について委員の皆さんから何かございますか。

(なしの声あり)

委員 長

事務局からは。

(なしの声あり)

4 次回委員会の日程について

委員 長

それでは、次回委員会の日程については、委員長、副委員長にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

委員長

そのようにいたします。

以上で第28回総務文教常任委員会を閉会いたします。

長い時間お疲れさまでした。

閉 会 16:01

令和8年2月13日

滝川市議会議長 山本正信様

滝川市長 前田康吉
滝川市教育委員会教育長 田中嘉樹

総務文教常任委員会への説明員の出席について

令和8年1月28日付け滝議第112号にて通知がありました第28回総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

委員会に出席を求められた者

市長 前田康吉

滝川市長の委任を受けた者

副市長 中島純一
総務部長 和田英昭
総務部次長 小畑力也
総務部総務課長 須藤公夫
総務部総務課長補佐 鎌塚芳奈
総務部総務課係長 渡邊弘行
総務部総務課主任主事 奥村亮
総務部総務課主任級主事 菅井駿平
総務部総務課デジタル推進室長 安田健二
総務部総務課デジタル推進室係長 宮本季政
総務部総務課人材育成推進室長 常盤彰彦
総務部防災危機対策課長 平川泰之
総務部防災危機対策課主任級主事 関佑斗
総務部企画課長補佐 平野貴之
総務部財政課長 岡崎卓哉

滝川市教育委員会教育長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育部長 諏佐孝
教育部指導参事 福田善之
教育部教育総務課長 伊吹竜也
教育部教育総務課長補佐 湯澤美由紀
教育部教育総務課主査 伊東一樹
教育部教育総務課主査 大井勇輝

教育部学校運営課長	土 橋 祐 二
教育部学校運営課長補佐	壽 永 美 和
教育部学校運営課係長	渡 辺 勇 樹
教育部新しい学校づくり推進課長	横 田 和 典
教育部新しい学校づくり推進課係長	山 口 祥 弘
教育部新しい学校づくり推進課主任主事	三 浦 雷 大
教育部新しい学校づくり推進課主任級主事	宮 崎 隼 斗
教育部社会教育課長	運 上 琢 諭
教育部社会教育課係長	鈴 木 博 之
教育部社会教育課主査（専門員）	吉 住 晴 美
教育部社会教育課施設整備推進室長	鎌 塚 誠
教育部社会教育課施設整備推進室係長	平 沼 昭 徳
教育部社会教育課美術自然史館長	茶 木 哲 也
教育部社会教育課美術自然史館係長	永 井 芳 仁

(総務部総務課法制文書係)

第28回 総務文教常任委員会

日 時 令和8年2月18日(水)
午後1時30分～
場 所 第二・第三委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶(委員動静)

1 所管からの報告事項について(◎印は議案関連)

《教育部》

- (1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (資料) 教育総務課
- ◎ (2) 令和7年度一般会計補正予算について(文化・体育大会派遣奨励費、中学校燃料費及び光熱水費、ICT関連予算並びに要保護・準要保護児童(生徒)就学援助費) (資料) 学校運営課
- (3) 第2期滝川市小・中学校適正配置計画改訂(案)に係る経過報告について (資料) 新しい学校づくり推進課
- (4) 滝川第一小学校建替整備基本計画策定業務に係る中間報告について (資料) 新しい学校づくり推進課
- ◎ (5) 令和7年度一般会計補正予算について(市民交流プラザに係る賃借料) (資料) 社会教育課
- ◎ (6) 滝川市公民館条例の一部を改正する条例について (資料) 社会教育課
- ◎ (7) たきかわホール条例を廃止する条例について (資料) 社会教育課
- ◎ (8) 滝川市陶芸センター条例を廃止する条例について (資料) 社会教育課
- ◎ (9) 公の施設の指定管理者の指定について(スポーツセンター等) (資料) 社会教育課
- ◎ (10) 公の施設の指定管理者の指定について(石狩川河川敷パークゴルフ場) (資料) 社会教育課
- ◎ (11) 不動産の無償貸付けについて (資料) 社会教育課
- ◎ (12) 滝川市B&G海洋センター条例について (資料) 社会教育課
施設整備推進室
- ◎ (13) 滝川市こども科学館条例を廃止する等の条例について (資料) 社会教育課
美術自然史館・こども科学館・郷土館

《総務部》

- ◎ (14) 一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について (資料) 総務課
- ◎ (15) 滝川市行政手続条例の一部を改正する条例について (資料) 総務課
- ◎ (16) 令和7年度一般会計補正について(住民情報システム標準化対応に係るシステム改修委託料の減額) (資料) 総務課
- (17) 滝川市DX推進計画(案)について (資料) 総務課
- ◎ (18) 令和7年度一般会計補正予算について(避難行動要支援者システム更新委託業務に係る経費の繰越) (資料) 防災危機対策課
- ◎ (19) 令和7年度一般会計補正予算について(一般乗合バス運行負担金の減額) (資料) 企画課
- (20) 滝川市公共施設個別施設計画前期計画及び滝川駅周辺地区再生整備事業並びに財政収支の見通しについて (資料) 総務部

(終了後、所管及び報道各社の退室)

2 第1回定例会以降の調査事項について～別紙

3 その他について

4 次回委員会の日程について

○ 閉 会